

助成事業実施報告書

団体名 相楽連合むつみ会

代表者・役職名 氏名 巴田明美

▼報告書の扱い、および記入にあたっての注意点

この報告書(精算報告書以外)は、ホームページなどで公開する予定ですので、広く読まれることを想定してご記入ください。また、編集段階で、表記・表現等を事務局で編集する場合がありますので、あらかじめご了承ください。語尾の表現は「です・ます」調をお願いします。報告書に掲載するため活動の内容がよくわかる写真(2枚程度。写真の肖像権問題がないものの提出をお願い致します)を添付して下さい。

1. 助成プロジェクト名

『わけわけくるくる』

2. プロジェクトの内容(※当初予定と変更がない場合は、応募申請書に記載のものでも可) 300文字程度

各種団体からいただいたり購入した食糧品、生活用品などを月に一度(お渡し期間は6日間ほど)、ひとり親家庭へお渡ししました。また、子どものおもちゃや衣類、学用品などを会の中でリサイクルしました。

この場に取りに来られない方へはお届けをしました。

コロナ感染も気がかりで一度に参加者が集まっていたの実施は不可であることで期間を数日間設け実施

3. プロジェクトの実施で得られた「結果」(OUTPUT。実施回数や参加者数など)、「成果」(OUTCOME。事業によって生まれた直接的な変化)、「社会的な変化」(IMPACT。事業が社会に与えた影響)などの『効果』 300文字程度

実施回数は、13回です。参加された家庭数は延べ967家庭です。4月当初は56家庭でありましたのが10月、11月頃より80家庭程度に増えてきました。生活に直に関わる品物の値上げが私たちの生活をじわじわと苦しくし始めました。会のメンバーの方だけでなく、町村役場の担当課へは当会が実施しているフードパントリーをご説明していますので、緊急的に食の支援が必要な家庭などがあつた時には役場より連絡が入り、食糧品等のお届けにも行きました。

毎月、1回の実施ではありますが楽しみにしている子どもや、「この場があつてもて助かります」、「有難いです」の声を何度も聞きました。

4. プロジェクト実施にあたっての課題、今後の展望など 300文字程度

生活品の高騰があり、今まで以上にフードパントリーへの参加者増えました。今後も増えていくと予想されます。この事業が継続していけるために活動実施者を増やすこと、自家用車で引き取り作業の費用の確保をするのが課題です。合わせて、公的な支援に変わって安定したものになることを望みます。

5. 参考資料

プロジェクトで作成したチラシ、パンフレットやマスコミで紹介された記事等のデータ。活動の様子がわかる写真などを必ず別途ご提供ください

